

一般質問通告書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第 62 条第 2 項の規定により
通告します。

平成 25 年 5 月 27 日

議席番号 6 番

東村山市議会議長 様

質問者 三浦 浩寿

記

番号	質問の項目と要旨
	<p>1、育ち盛りの生徒に温かい食事を ～スクールランチをもっと美味しく、そして全校全生徒へ～</p>
	<p>●教育所管の食育への取り組み、その努力</p> <p>東村山市では、小中学校の給食に、地場野菜の日として、東村山産の野菜を取り入れた給食メニューを出すことで地産地消の指導も行われている。</p> <p>①当市の学校給食における地産地消の取り組みについて、確認のために伺う。</p> <p>②東村山給食運営委員会は、平成 24 年 11 月 6 日（火）に東村山第七中学校で、食育に関する研究授業を行っている。スクールランチの献立作成や調理過程を学んでいる様子があり、実際に食べているスクールランチに、どのような人が関わり、どのような過程を経て、作られているのか生徒に考えさせている。 スクールランチが食育に活かされていると感じる。 このような取り組みは、市内の他の中学校でもされているのか伺う。また、他には具体的にどのような取り組みが行われているのか伺う。</p> <p>●中学校における昼食時間、その経緯と現状</p> <p>当市では、市内中学校の全 7 校にスクールランチと呼ばれる「弁当併用外注方式」を採用している。</p> <p>③選択制になった経緯を伺う。</p> <p>④配膳型の給食の外部委託という選択はなかったのか伺う。</p>

⑤現在中学校ではスクールランチと弁当持参の生徒が、同じ教室で食事をしていると思うが、昼食時間に、担任はどこでどのように食事しているのか、わかる範囲で伺う。

⑥スクールランチの申し込みをせず、弁当も持参しない生徒は、登校途中にコンビニで買うこともある。このような生徒を把握しているか、また担任は、どう対応しているのか伺う。(注意する、黙認する、許可している等)

●同じテーブルを囲んでも別々のメニューを食べる「個食」

⑦スクールランチの喫食率を伺う。また、スクールランチを利用しない生徒について、弁当持参なのか、買って来たものなのか、現状の割合を伺う。

⑧スクールランチを委託で全生徒分が賄えるか伺う。

⑨委託で全生徒分が賄えるのなら、全てスクールランチにする、もしくは弁当持参を全ての親に義務付け、100パーセントを目指す等、いずれにしても統一を図るということでの、これまでの検討内容と今後の方針を伺う。

⑩コ食→個食、孤食、子食、固食、粉食、濃食、小食など現代の食生活を注意する意味でコ食というにはたくさんの意味がある。

個食→同じテーブルを囲んでも各々が別々のものを食べること

孤食→一人で食べること

子食→子どもだけで食べること

固食→決まったものばかり食べること

粉食→パンや麺など粉から作られたものを食べること

濃食→味の濃いものを食べること

小食→食べる量が少ないこと

残念なことではあるが、当市の中学校における昼食時間は、「個食」と言わざるをえない。「個食」は協調性の発達に影響がするとも言われ、教育現場として決して望ましいと言えるものではない。

先に挙げた給食運営委員会でこのことについて議題となったり、検討を重ねたことはあったのか伺う。

●一貫した給食施策の実現を

⑩高校生や大学生、社会人になると、弁当や外食、コンビニ、ファストフードを食べる機会も増え、偏った食事になることも多い。

外食やコンビニエンスストア等の現代の食環境をうまく利用できるようになるまでは、家庭や学校で、安全で栄養バランスのとれた食事をとることが習慣となるように教育していくことが望ましいと考える。見解を伺う。

⑪育ち盛りの生徒のために考えられた食事・食育の方法として、スクールランチ方式によって栄養をサポートし一貫した食育を目指すのか、明確にどのような方向性を示すことで、昼食時間の指導の在り方も変わってくると思う。

市として、こういう方針である、という基本的な考え方、中学校の給食についてどのような方針であるのか見解を伺う。

●総括

⑫スクールランチの衛生管理、栄養面、費用を考えると、非常に努力されており、これがもしも、弁当併用ではなく、“原則スクールランチ”としたならば、もっとスクールランチに焦点を当て、食育の向上につなげていくことができる。

本来、義務教育における公立小中学校では、“給食の時間も教育の一環”との考え方から、配膳型の給食が望ましいが、当市の中学校には給食室がない。

「給食室がない、だから弁当持参。弁当を持ってこられない生徒がいるからスクールランチ導入」というのが当市の施策であるように思うが、そうではなく「給食の代替としてのスクールランチ」という位置づけにしなければならないと考える。

仕方がなく弁当とスクールランチの併用という、どちらつかずの状態ではなく、学校における給食の教育的意義からも、食育の観点からも、スクールランチの100パーセント導入を求めるものである。

現在のスクールランチについて、味や提供時の温度などで不評をかつていることは否めない。全校スクールランチ導入により、業者としても、安定的な収入が見込め、設備投資がしやすい。結果、最低でも温かいご飯、スープや味噌汁などの汁物を提供が可能になったり、最終的には温冷庫での配食が可能になるかもしれない。

公立中学校における「教育的位置付けからの給食」、「これから生きていく上での食育という観点からの給食」。

当市が導入しているスクールランチ制は、これら2つの意義を十分に含んで発展する余地がまだまだある。スクールランチ制を全校全生徒を対象とすることを目指すべきと考えるが見解を伺う。